

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	こども発達支援たんたん		
○保護者評価実施期間		2024/11/1	～ 2024/11/29
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間		2024/11/1	～ 2024/11/29
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2024/12/25		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職による支援	公認心理師、言語聴覚士、精神保健福祉士、社会福祉士など専門職による個別支援などに対応している。	個別支援計画を基に専門的支援計画を作成し、利用児及びご家族の要望に沿った支援に取り組んでいく。
2	支援プログラムの形成	発達段階に応じた個別支援（学習・トレーニング）を中心している。また、集団活動では、運動やゲーム、創作活動などを通じてルールやコミュニケーションスキルの習得に積極的に取り組んでいる。	子ども同士の関わりのなかで、子ども自身の自主性・主体性が導き出せるような支援を行っていく。
3	保護者支援及び関係機関連携	保護者からの相談（生活上や園などでの困り感）に応じ、問題解決や改善策に積極的に取り組んでいる。 生活上での、困り感や保護者の不安・心配が出てきた場合には、関係機関等と緊密に連携を図り、その改善策に取り組むことを進めている。 また、年長児は特に就学に向けて園との連携を図り、スムーズな就学の移行を目指している。	引き続き、保護者のニーズに応えていけるよう、関係機関との連携を緊密に図っていく。また、保護者の不安や悩みに寄り添った支援を提供し、安心していただけるよう努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士で交流する機会	現在は、保護者同士の交流は行っていないが、交流を望んでいる少数意見もある。	今後、同学年や学年の近い保護者同士の交流の機会や、保護者を対象とした家族教室や、ペアレントトレーニングの開催を検討する。
2	発達支援室等のスペース	開設基準は満たしているが、利用者の多くは男の子であり、活発な利用者もいる。壁・柱やガラスなど危険と判断する場所は、ケガや事故につながらないよう配慮して、支援を行う。	事業所内は限られたスペースのため、集団活動での運動遊びやゲームは、スペースに見合った活動を行う。
3	地域に開かれた事業運営	隣接は、商用施設やアパートであり、特に何も行っていない。	町内のイベントや町内役員との接点も無いため、今後検討していくことが必要と考えているも必要と考える。

公表 護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

事業所名	こども発達支援たんたん						公表日 令和6年12月25日	利用児童数 9名(令和6年11月1日現在)	回収数 100%
	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8		1		・真ん中の柱がある分、少し狭いのかなという印象です。	構造上、重要な柱であるため、撤去できません。安全に配慮し、支援していきます。		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	7			2				
	3 生活空間は、ここにいつがいつまで構造化されていないと思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6	2		1				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8			1	・真ん中の柱が危ないかなと思います。（特に小さい子）	構造上、重要な柱であるため、撤去できません。安全に配慮し、支援していきます。		
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8	1						
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9							
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9							
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8			1				
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9							
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7			2	・小さい子は、運動のサークル等もあると、子どもも楽しめるかなと思います。	発達段階に応じた個別支援や集団活動では、運動やゲーム、創作活動など固定化しないようしています。		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2	3		4				
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8	1			・最初は負担金が無しと言われましたが、途中で教材費がかかりますと言われた。	途中で負担金の変更は、大変申し訳ございません。皆様に満足される支援を目指します。		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9							
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9							
保護者への説明等	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	9							
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9				・参観、面談を定期的にしてくださって、親も話を聞いてもらい、共感・肯定してくださるので、自分の育儿に自信が持てて気持ちが楽になります。	今後とも、参観や面談を通じ、いろいろな相談やご意見をお待ちしております。		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9							
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	3	2	3	・保護者同士の交流はしてみたいですが、時間を合わせることをかんがえると、なかなか難しいのではないかと思います。 ・今の所、まだ無いので期待を込めて。 ・同じ年長児をお持ちの保護者の方とお話しできる機会があったら、「良かったのにな」と思ったことがあります。	今後、同学年や学年の近い保護者同士の交流の機会や、保護者を対象とした家族教室や、ペアレントトレーニングの開催を検討します。		
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9							
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9							
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	9				・アプリでその日の様子を写真と文字で教えてもらえるので、子どもの楽しそうな姿が分かってありがたいです。	支援アプリ「Hug」を活用し、写真を活用した「見える支援」に努めて参ります。		

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9				
非常時等の対応	23	事業所では、事由別マニュアル、緊急時対応マニュアル、防火マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4	1		4	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2	2		5	・今の所、まだ参加したことがないため。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7			2	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7			2	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	9				・否定的な言葉はかけず、愛情深く接して下さるので、子どもはのびのびと通うことが出来ています。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	9				・子どもが「毎日行きたい」と言うくらい、楽しく通えています。 ・毎週、楽しみにしています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	9				・たんたんに通ってから他児との関わりが増え、嬉しく思っています。 ・アプリなどを通じて、支援内容も見ることができ、安心して通わせることができます。

公表 業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名	こども発達支援たんたん			公表日	令和6年12月25日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1		開設基準は満たしているが、利用者の多くは男の子であり、個々の運動量も多い。壁・柱やガラスなど危険と判断する場所は、ケガや事故につながらないよう配慮して、支援を行つ。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	3	・今現在あるスペースや部屋を「こほの部屋」、「こころの部屋」、「パンダの部屋」と子どもにわかりやすいように名前をつけて、活動ごとに分けてることで、以前よりもスムーズになった。 ・全体を見渡せる環境であり、利用者にわかりやすい構造だと思う。	・全体を見渡せる環境であり、利用児にわかりやすい構造だと思う反面、トイレを増築したり、柱を撤去したり改善できない問題点もある。 ・支援室の中央にある柱が危ない。布で保護をしているが、いつか体を強くぶつけ怪我をするのではないかと心配に感じる。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	3		・利用人数や活動内容によっては、快適な空間とは言えないが、空間にあった活動を今後もしていく。 ・可能なら個室の空間を増やす。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		・相談室（こころの部屋）や階段下の空間をクールダウンの場にしている。 ・個室の部屋は、相談室しか無いが、支援や自主的な学習にも使っている。	個別支援を使いたい複数の個室が欲しいところであるが、カーテンでのパーティションを作成し、代用している。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	4		少ない職員のため、定期的な委員会や会議などは、開催は難しいこともあるが、できるだけ職員全員がそろって委員会や会議を開催するようにしている。 今後は、定期的な委員会と会議の開催を行っていく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	・年1回の保護者向けの自己評価表の実施や、数か月ごとの面談で業務改善につなげている。	今後も保護者の意向等把握し、より良い支援のため業務改善に努めていく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	4		・不定期にはミーティングを行ってきたが、今後は定期的に業務改善のために行う必要があると考えている。 また、職員間はお互いに意見の言いやすい環境づくりを行っていく。 ・スタッフ全員で意見が言えて、検討できる機会を意図的に作る必要がある。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	5		・第三者評価は実施していないが、コストの部分で改善があれば、外部評価も検討したい。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・職員が行きたい研修には、できるだけ参加してもらっている。 ・他事業所、園への見学の機会をいただき、適宜実施している。 ・支援ミーティングや社内研修等の中で、児童を支援していくうえでの問題点や検討事項等の話し合いを行っている。また、雇用形態を問わず全職員が社内外の参加でできる機会の設定、専門職の充実など、より質の高い療育支援の提供を目指し、他職種が連携することで職員が学ぶ機会を確保している。	職員（児童指導員）から他施設への現場研修の要望があり、スキルアップのため他施設への研修を実施した。今後も、職員からの要望も検討し、職員全員が学ぶ機会を確保する。
適切な支	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	2	5		・ガイドラインの発達の5領域や子どもの発達段階に合わせ、職員間で話し合いを適切に行い、支援プログラムを作成しているが、公表は出来ていないため、これから公表をする
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		・保護者との定期的な面談や必要に応じた相談等により、保護者や本人からのニーズを確認し、課題については個別支援計画等で検討したうえで、作成している。また、必要に応じて学校や相談支援事業所など関係機関とも連携しながら、作成している。	・今後も、保護者のニーズや利用児の課題を適切に分析し、満足感を得られる支援を継続して行っていく。また、必要があれば保護者の同意を得て、園とも連携し、支援の方向性の共有を図っていく。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		・支援開始前、支援終了後に必ず職員間で支援計画を確認、共有し計画に沿って毎回支援を行っている。	利用児の前回活動時の様子や配慮する事項など、プログラムの共有役割分担など念入りに打合せを行っているが、支援計画会議をもって定期的に開催することを検討する。
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	3		・今後、支援に必要と思われるツールを使用する予定である。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドブック「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7		・ガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」に即した支援内容（本人の支援、家族の支援）などを踏まえ、それぞれの子どもに適切な支援の優先順位をつけて、具体的な支援内容を設定している。	ガイドラインの項目をよく確認し、適切で具体的な短期目標、長期目標など今よりも計画的に設定していく。

援の提供	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		・考えが偏らないよう様々な意見を考慮して支援の方針を決めている。 ・児童指導員、機能訓練担当職員がチームとなり、各職員の得意分野を活かして、プログラムを構成している。日々の振り返りも行っており、改善点が反映されている。	プログラムの目的やその日の利用児の様子に合わせて、支援が出来るようチームで連携を図っていく。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・利用児にあったプログラムを考えることにかなり苦労しているが、なるべく新鮮味のある内容になるよう工夫している。 ・児童の発達状況に合わせて、自立課題、運動課題、外出活動や出前講座などいろいろな活動を提案し、組み合わせることで、同じ活動が続かないように工夫している。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1		
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		・少なくとも半年に1回、モニタリングを行い、計画を策定するために個別支援会議を開催し、計画の見直し等を行っている。	半年ごとにモニタリングを行い、個別支援計画の見直しは行っているが、子どもの状態が変化したときには適宜、計画の見直しを行っている。
	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		連携を行う体制はあるため、今後は保護者の了承のもと、行っていきたい。
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1		並行利用している子どもに関しては積極的に連携をとっているので、今後も継続していく。
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	2		今後、必要があれば情報共有を行う。
	(28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るために、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	3	・専門機関から案内があれば、研修会に参加したり児童の状況に応じて、専門機関から助言をいただきながら支援する。また、研修を受講した職員は、報告するとともに、知識を共有する。	スーパーバイズや助言は受けていないため、今後、受ける機会があれば受けたい。
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	6		地域の中で他のこどもとの交流や活動と一緒にする機会を設けていきたい。
	33 曰頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			支援システム「HUG」を利用し、保護者へ利用日ごとに活動内容について発信している。また、定期的に面談も行っているため、継続していく。
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3		今後、家族教室やペアレント・トレーニングを行う予定。
関係機関や保護者との連携	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			定期的に保護者と面談を行い、保護者の悩みや不安について必要な助言などを実行しているため、継続していく。
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		7		
	40 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		・相談や申し入れがあった際は、職員同士で共有し、話し合いのもと迅速に対応している。	

	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	2		HP、SNS（インスタグラム）や支援システム「HUG」やメールにより、発信しているが、これからさらに情報発信を強化していくたいと考えている。
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	1		
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7		今後、検討していく。
非常時等の対応	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4			・アレルギーの子供はいないが、受け入れる場合は、医師の指示書等をもとに保護者と相談しながら、対応していく予定。
	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	3		・子どもの安全確保については、保護者に十分説明し了解を得ている思うが、部分的に周知が不十分かもしれないため、今後、手紙やHP掲載などで周知をはかる。
	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			事業所内研修だけでなく、外部研修を活用して、虐待防止への理解を深める機会を今後も作っていく。さらに、セルフチェックシートも活用しながら支援の振り返りを行っていく。
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	1		身体拘束を行う場合についての周知が不十分な可能性があるため、再度周知を行う。